

## 【「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書】

(モデル校名 福岡県前原市立加布里小学校)

○学校の概要 (平成15年4月現在)

前原市立加布里小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	3	2	2	15	25
児童数	61	71	82	76	90	75	8	463	

### 1 本年度当初における本校の「総合的な学習の時間」の課題

本校では、昨年度から校内研究を中心として総合的な学習の充実に努めてきた。そして、地域の特色やよさを実感できる教材開発や人材の効果的活用などについて、一定の成果を収めることができた。

しかし、一方では、①総合的な学習の単元づくりがその年の担任に委ねられており、学校としての系統性や一貫性が明確でない、②前年度までの子どもたちの「総合的な学習の経験」を踏まえた計画立てという面が不十分であるという課題が残されていた。

### 2 モデル事業としての研究の経緯と方向性

本推進地域(3小学校と1中学校)では、モデル事業の推進の為に、各校の校長・教務主任・総合的な学習担当者の3名で構成する「4校推進委員会」や、提案内容を事前に検討する「事務局会」などの組織づくりを行うとともに、これらの会を月1回実施する定例化を進めていった。

そして、4校での協議を通して、各校独自で総合的な学習の時間を取り組んできた為に、①小学校間および小中学校間における情報交換が行われておらず、互いの内容理解がなされていない、②総合的な学習で身に付けさせたい資質や能力が明確でないという現状の課題が浮かび上がってきた。

そこで、まずは、総合的な学習の時間の計画や実施状況などを互いに持ち寄りながら、その内容についての共通理解を図るとともに、4校としての推進の在り方について協議を進めていった。

そして、①小中学校で共通して行っている「環境」と「福祉」領域の学習における連携を図る、②総合的な学習を構想するにあたっての共通理解(基盤)としての「身に付けさせたい資質や能力」を設定する、③人材や施設などの教育活用資源に関わる情報の共有化を進めていくことを推進の方向性として確認していった。

今後は、これらの内容の具体化を図っていくとともに、本事業を契機として、各校における「総合的な学習の全体計画」の整備にも努めていく予定である。

### 3 平成15年度の実施内容および成果と課題

成果としては、まず、本事業を通して「小中学校7年間を見据えて総合的な学習の時間を考える」という視点からのアプローチが設定されたことによって、本校の課題であった総合的な学習における学年間の系統性や子どもたちの経験を踏まえた単元づくりについて、見直していく契機となりつつあることが挙げられる。

また、本事業の「事務局」が本校におかれて推進の中心的な役割を果たしてきており、事業の進捗状況を適時「教務通信」で知らせていることもあり、職員のモデル事業に対する意識も高まってきている。

今後の課題としては、小中連携を単元構想および実際の授業レベルにまでいかに具体化していくのかという点があり、この際には、より深く中学校との連絡や調整・協議を進めていかねばならない。

### 4 今後の予定

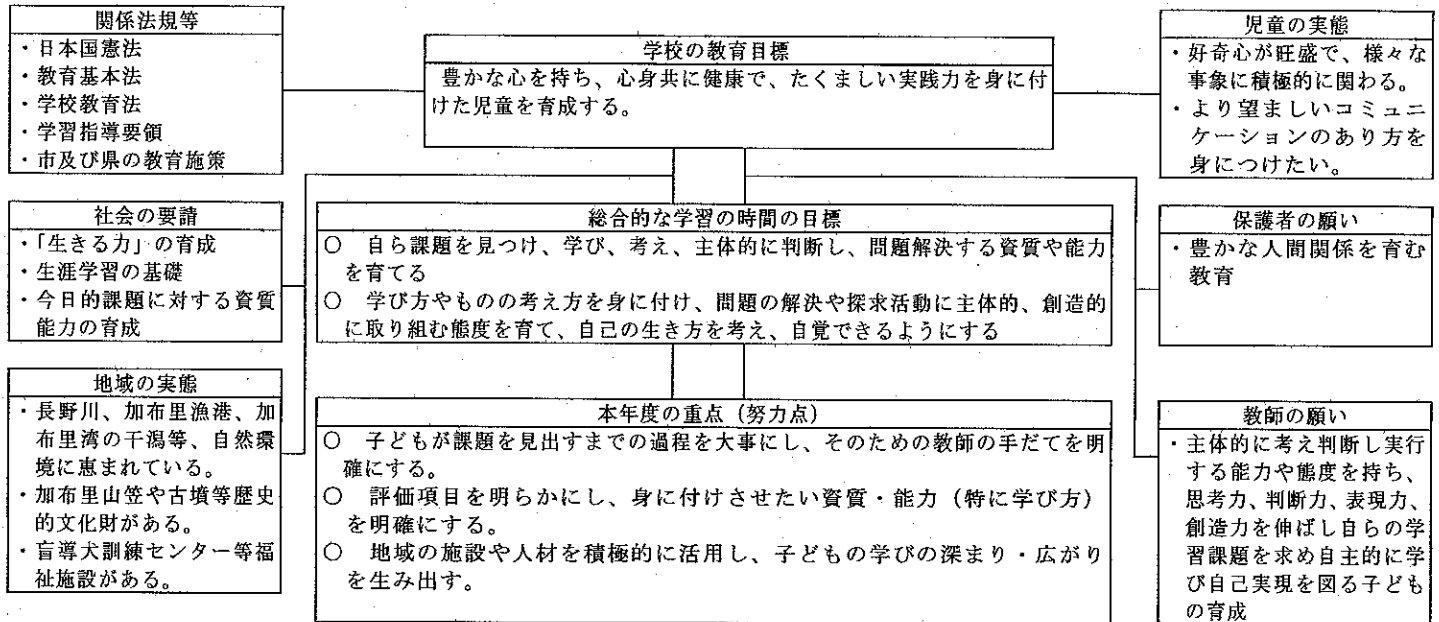
4校推進委員会での協議を受けて、本年度末に向けて、「各学校の全体計画」を作成して検討することと、中間報告をまとめることが決められ、これらの作業を進めているところである。

なお、この全体計画については、本校の総合的な学習のねらい・めざす子どもの姿・学年のねらいと内容・活動計画などを含んだものを作成することとしている。

また、来年度は、前述した①～③の推進に努めていくこととなるが、小中学校の連携を深める「プラン作り」とともに、共通理解にもとづく「実践づくり」や授業公開をも視野に入れた「発信」などの具体化、さらに、教育資源のリスト作成や4校を包括する全体計画などについても検討を行っていく予定である。

# 平成16年度 総合的な学習全体計画

前原市立加布里小学校



学習テーマごとの目指す子どもの姿		
	中学年	高学年
環境	○ 地域の自然や環境に関わる感動体験から、関心を持ち、親しみながら生き物の世話や観察をしたり、環境に関する関わり方や問題点を調べたりする活動を通し、自分達の生活と環境との関わりについて自分なりの考えをつくることができる。	○ 生活をとりまく環境に関心を持ち、見通しを持って様々な観点から地域の環境に関する調査を行い、生物と環境の関係や身のまわりの自然環境と人々の生活のつながりを、広い視野から様々な事象をもとに関連づけながら、多面的に自分の考えを作ることができる。
福祉	○ 身近な地域の高齢の方や「障害」のある方々とのふれあい活動を通して、共に過ごすことの楽しさを感じながら思いやりの心をもつことができる。	○ 身近な地域の高齢の方や「障害」のある方々とのふれあい等の具体的で多様な活動を通して、共に生きるために誰に対しても同じ目線にたち、思いやりの心をもつことができる。
国際理解	○ A L Tとの交流を通して、外国の言葉や遊びに関心を持ち、親しむことができる。	○ A L Tとの交流を通して、外国の言葉や文化に関心を持ち、親しむことができる。
創意	○ 他教科との関連や学年の実態に応じて設定し、資質・能力を高めることができる。	○ 他教科との関連や学年の実態に応じて設定し、資質・能力を高めることができる。

身に付けさせたい資質・能力(中・高のねらい)		
	中学年	高学年
問題解決能力	○ 具体的な事象を比較したり、関係づけたりして課題を見つけることができる。 ○ 課題解決のための見通しをもち、簡単な計画を立てることができる。 ○ 計画をもとに情報収集を行い、課題に対する自分なりの考えを作ろうとする。 ○ 課題に対する自分の考えを明らかにし、学習の成果をまとめることができる。	○ 具体的な事象を複数の視点や条件から関係づけながら課題を見つけることができる。 ○ 課題解決のための見通しや予想をもち、具体的な追究方法をもって学習計画を立てることができる。 ○ 計画をもとに様々な情報収集し、課題に対する自分なりの考えを作ろうとする。 ○ 課題に対する自分の考えを明らかにし、学習の成果をまとめたり、結論づけたりすることができる。
学び方や考えの創造	○ 視点を決めて身近な範囲から情報収集したり、収集の手段を広げたりすることができる。 ○ 相手や目的に応じて自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ○ 自分と友達のを比べながら話し合うことができる。 ○ 学習の仕方や進め方を振り返ることができる。 ○ 事象と事象を比較したり、関係づけたりすることができる。	○ 広い範囲から多様に情報収集したり、情報収集の手段を選択したりすることができる。 ○ 目的や意図に応じて自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ○ 相手の立場や意図を考えながら話し合うことができる。 ○ 学習の仕方や進め方を振り返り次の学習に生かせる。 ○ 事象間の因果関係を分析したり統合したりできる。
主体的態度・度創	○ 学習対象に興味や関心を持つことができる。 ○ 積極的に追究活動を行うことができる。 ○ 自分が考えた方法で追究することができる。 ○ めあてをもって追究することができる。 ○ 学習の成果を生活の中で効果的に活用することができる。	○ 学習対象に興味や関心を持つことができる。 ○ 積極的に追究活動を行うことができる。 ○ 自分のアイデアやこだわりをもって追究することができる。 ○ 目的意識をもって追究することができる。 ○ 学習の成果を生活の中で効果的に活用することができる。

自己 生き の方	○ 課題に対する自分の見方考え方をもつことができる。	○ 課題に対する自分の見方・考え方をもつことができる。
	○ 学習の成果から自分の伸びを自覚することができる。	○ 学習の成果から自分の伸びを自覚し自信を持てる。 ○ 今の自分の望ましい行為のあり方を明らかにできる。

学年の内容				
	3年	4年	5年	6年
環境	○ 身近な自然に住む生き物を調べ、飼育したり、身近な植物の観察や自然素材での遊びを通して、加布里的自然の豊かさに気づき、愛着を持つことができる。	○ 身近な河川の水質調査や河川敷の観察などの調査から、河川の汚れの原因は人間の活動や環境に対する意識との関わりが深いことをとらえ河川の環境美化する方法について考え行動することができる。	○ 身近な自然（山や海）の中で楽しい活動を行う中で、自然の素晴らしさを味わうとともに、自然を守る方々の活動を知ることを通して、この環境を守るために自分達にできることを考える。	○ 日本あるいは世界的な視野で環境問題をとらえる中で、環境問題における日本の過去・現在を調べるとともに、これからの日本の姿について、自分の行動とかさね合わせながら考え行動する。
福祉	○ 地域のお年寄りから、昔の遊びや文化を学ぶことを通してふれ合い、お年寄りのもつ知恵や経験、素晴らしさに気づき、親しく接するための交流のあり方を考える。	○ 目や耳の不自由な方々の生活を知り、その困難さや喜びについて、体験や調査活動、聞き取り活動を通して、考え合い、自分達にできることを考え行動する。	○ 自分達の生活がいろいろな方々の労働に支えられていることに気づくとともに、「障害」を乗り越え、自分の夢に向かって歩んでこられた方から生き方の素晴らしさやたくましさを学ぶ。	○ 高齢者・障害者への取材活動や福祉施設の見学を通し、バリアフリーの視点から地域の福祉問題をとらえ、くらしやすい社会にするために、社会の一員として自分であることを考える。
国際理解	○ ALTの活用を中心に、単語や簡単なあいさつがわかり、遊びなどを通して、親しむことができる。		○ ALTの活用を中心として、様々な会話文がわかり、多様なコミュニケーション活動を通して、親しむことができる。	
創意	○ 他教科との関連や学年の実態に応じて設定する。		○ 他教科との関連や学年の実態に応じて設定する。	

活動計画				
	3年	4年	5年	6年
環境	○大好き加布里	○発見！みんなの長野川	○発見！加布里自然体験	○見つめよう命！加布里的未来
福祉	○名人さん事典を作ろう	○バリアフリーについて考えよう！	○「はたらく」ってなあに	○見つめよう命！加布里的現在（施設訪問）
国際理解	○ALT	○ALT	○ALT	○ALT
創意	(例) ○加布里うどんを作ろう ○めざせ！昔の遊び名人		(例) ○「食」大切な食べ物	(例) ○見つめよう命！古代人体験

主に関連する教科等				
国語科	○ 目的・相手・意図・場・状況に応じ、自分の考えをまとめ、相手によりよく表現し、伝え合い聞き合う力を育てる。 ○ 事実と意見を区別し、筋道を立てて書く力を伸ばす。	生活科	○ 活動や思いから児童の思いや願いを育む学習を積み重ねる。	
社会科	○ 地図、統計など各種の資料を効果的に活用する。 ○ 地域の方々の生活に必要な水、ゴミの処理と健康な生活について考える。（環境） ○ 人物の働きや地域に残る文化的なもの・ことを中心に先人の働きについて理解する。 ○ 国民主権や基本的人権の尊重と関連づけて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考える。	家庭科	○ 身近な人々との生活を考え、自分の家庭生活について環境に配慮した工夫ができる。	
		道徳	○ より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。 ○ 思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 ○ 郷土や地域の文化・伝統を大切にし、先人の努力を知り、地域を大切にする心をもつ。	
算数科	○ 目的に応じて資料を分類整理し、それをグラフに用いて表す。	特別活動	○＜学級活動＞ 希望や目標を持って生きる態度を形成する。 ○＜学校行事＞ 異学年交流を通しよりよい人間関係を作り出そうとする態度を育成する。	
理科	○ 生活経験から自分なりの見通しを持ち、観察・実験などを行い、科学的な見方や考え方を持つ。			

地域との連携	中学校区内の小・中学校との連携
○ 糸島地区ボランティア派遣事務局を通じた授業援助 ○ 加布里校区区会議を通じた地元の方々の授業援助 ○ 前原市役所生活環境課や文化課の方々の授業援助 ○ 加布里漁港の方々による授業援助 ○ 商店の見学やお店の方々による授業援助 等	○ 中学校区内の小・中学校と4校事務局会や推進委員会を開き、発達段階に応じて身に付けさせたい資質・能力や学習内容の系統性や発展性について意見交換を行う。 ○ 人材・施設等の教育資源のリスト作成と情報の共有化を進める。 ○ モデル事業推進から明らかになった本校の成果と課題を明らかにし、4校で交流し、県下に発信していく。